

第4回「山のトイレフォーラム」発言要旨

新得山岳会企画副部長 小西則幸

新得山岳会は、トムラウシ山の麓の会として、東大雪をホームグラウンドとして、1951年に結成した、現在53名の会員を有する会です。

「南沼」「大沼」にトイレの設置を

東大雪では「大沼」「ヒサゴ沼」「南沼」が、野営指定地で、ヒサゴ沼のみトイレと避難小屋があります。

「大沼」のテント設置場所は、沼周辺の砂地であり、沼を囲むようにハイ松帯となっており、沼周辺が用を足す場所となっています。

しかし、雪解け時期や大雨が続いた時は、幕営場所がなくなる程、大沼が数倍の広さになります。このことは、幕営地周辺で用を足したものが、沼の水にさらされていることになります。大沼は大腸菌が検出されるのではと心配しています。

「南沼」の幕営の利用者は、大沼の比ではありません。大沼方面、白雲岳方面、十勝岳方面、下山のために、縦走の要所として夏場は大にぎわいの野営指定地です。岩場の影、ハイ松の影などで用を足そうとしても、先客の跡があり、別の場所を探して縦横無尽、放射線状に踏み跡がついています。夏は臭うとまで言われています。

新得山岳会では、他の山の時もそうですが、トムラウシ山登山道でのゴミは、入山の都度拾いますが、一昨年、南沼のティッシュ拾いをしました。ビニール大袋4つ、50kgは超えていました。火ばしを持参しての清掃でしたが、ティッシュだけとはいえ、吐き気をもよおしながらの作業でした。ティッシュの他にガスボンベ、空き缶、残飯、ストック、テントまで捨ててありました。本当に岳人のモラルの低下がヒドイものがあります。昨年は、勤労者山岳会も清掃登山をしてくれました。同じく50kgを超える量でした。

登山ブーム、百名山ブームでここ10年くらい、大幅に登山者が増え、登山道含めて野営指定地の環境悪化が進んでいます。

新得山岳会は、環境保全のためには、野営指定地にトイレの設置がベストと考えていますし、強く設置を要望します。

山頂近くのトイレは、どこの機関が設置し、どこが管理をするのかが大きな課題だとは思いますが。入山者も負担すべきと思います。

携帯トイレ携行運動の推進を～ブースの設置も必要

十勝山岳連盟では、3～4年前から総会時に携帯トイレのサンプルで議論がされ出し、各単位山岳会にも配布されるようになりました。

北海道十勝支庁では、上川支庁より1年後の一昨年(2001年)から、携帯トイレの啓蒙、無料配布がおこなわれました。

登山口に回収ボックスが設置されたのが、配布2年目の昨年から。2,000個配布し、136個が回収されたとのこと。

そして、昨年からは南沼に携帯トイレで用を足すブースが、道庁の手によって建てられました

。ブース内で、直接用を足すのではとの心配もありましたが、南沼ではそれは無く、備え付けの使用簿では、62名の利用があったとのことでした。

しかし、野営地周辺に使用済みの携帯トイレが、10数個捨てられていました。捨てられていた場所は、岩影では無く、高山植物帯の上にあります。きっと、ブースで使用し、パッキングする時に、野営地から投げたものと思われます。高山植物帯の上に、緑の袋が点々とあるのは、非常に違和感のある風景でした。

日帰りのツアー登山者ではなく、縦走をする山のベテランと思われる人たちでさえ、このマナーの欠如には、言葉を失いました。

この情景を多人数で見た時に、「携帯トイレはマイナスだ」との声も聞きましたが、マナーが欠如した一部の登山者を基準にして、携帯トイレ携行運動を後退すべきではないと思います。

又、携帯トイレが普及しても、用を足す場所を探して、踏み跡が出来るのでは効果が半減します。南沼へのブース設置を歓迎しますし、大沼含めて野営指定地には、ブースの設置は必要と思います。

しかし、日帰りの山にまでは、必要だろうか？登山口にトイレが設置されていれば・・・

携帯トイレの回収には、幾つかの難題もあります。外袋のビニールは塩化ビニールで燃やせないゴミ。内ビニールは、ポリエチレンなので、一応燃やせるゴミ、しかし、中身は紙おむつと同じで、捨ててからでないとして、新得町では受けとらないのです。

回収ボックスの隣りには水洗トイレが必要になりますし、でも水洗トイレで裏返しにして、水にタタキつけてもなかなかきれいにはなりません。そこまで分別して回収ボックスに入れる人は少ないのが現実です。私は、家に持ち帰って家のトイレでじっくり分別しますが、公的交通機関を利用して帰る人には、キビシイものもあると思います。

せっかく携帯トイレを使っても、食料と一緒にザックに入れて、下山するのは抵抗があると言う人も多いと思います。私もザックの中には入れません。ザックの外に買い物袋などでブラ下げて帰ってきます。

そこで、携帯トイレをザックの外に固定出来るカプセルの様な物が市販されるとイイなと考えていましたが、とりあえず私は塩ビ管で作ってみました。

縦走する人たちのザックには、皆携帯トイレを収納するカプセル的な物をくくり付けている、それが当たり前の風景、付けていなければ恥ずかしい、非難されるようになれば、携帯トイレ携行運動が前進していると実感出来ると思います。

登山口には、トイレの設置を

昨年、トムラウシ山短縮登山口と、クチャンベツ沼ノ原登山口にバイオトイレが、道庁により設置されました。

トムラウシ山短縮登山口の7km手前には、キャンプ場があるのですが、夜中に登山口まで来て、テントや車中で寝て、朝用を足して登山を開始する人が増えていました。前日にタクシーで来る人も、キャンプ場に途中下車したくなくて、登山口までと言う理由の人も多くいます。

登山口が無残な姿になる事を防ぐため、山中の保全のためにも、あらゆる登山口にトイレの設置を要望します。

日帰りの登山者は、家で済まして来るのが本来と思いつつ。

新得山岳会の意見要旨

- 1) 野営指定地である「大沼」「南沼」に、トイレを設置すべきである。
- 2) トムラ短縮登山口にトイレを設置したのは歓迎する。全ての登山口にトイレの設置を。
- 3) 「携帯トイレ」携行運動は、推進すべきである。最低、ティッシュを持ち帰るのは当然のマナーとして、守ろう。
- 4) 携帯トイレは、基本的に登山者が負担すべきであると考えるが、当面定着するまで、道庁が無料配布して、浸透を図るのは、歓迎する。
- 5) 携帯トイレ占用ブースを「南沼」に設置したのは、歓迎する。「大沼」にも設置すべきと考える。
- 6) トムラウシ山の入山がオーバーユースになっていることについて憂いでいる。入山制限が出来ないものか。又、力量・日程・知識・事前調査等等安全登山でない登山者への制限方策はないものかと思う。